

## 「ユニセフのつどい 2017 in みやぎ」

### ～ケニアから命の響き…キベラスラムのマゴソスクール・希望を生み出すみんなの学校～

6月3日（土）、仙台市戦災復興記念館で開催し、125名が参加しました。ケニアのナイロビに100万人以上が住むキベラスラムがあります。そこには孤児や搾取されている子どもたちがたくさんいます。そのような子どもたちを救済するために、キベラスラムで生まれ育ったリリアンさんが寺子屋マゴソスクールを立ち上げました。18歳で世界放浪の旅に出た早川千晶さんは、アフリカに魅了され、ケニアに住むようになり、リリアンさんと一緒にマゴソスクールを支えています。この日は早川さんとマゴソスクールのダン・オチエン校長、ミュージシャンの大西匡哉さんによるアフリカトーク&ライブ。「ジャンボ」の歌から始まり、早川さんがなぜケニアに住むようになったか、ケニアのスラム街のこと、そこで暮らす子どもたちや支える人たちのこと、貧しさのどん底を生き抜くためには教育が大切、食べられるようにすることの大切さなど、たくさんの映像を使いながら話しました。最後には「マンボ・サワサワ」「すべての命は宝物」の歌と踊り。会場の人もステージに上がり、いっしょに踊りました。ロビーでは、ケニアの手作りアクセサリーやカンガで作ったバッグ類など販売しました。



## ユニセフ写真展「守りたい、子どもたちの未来」 5月23日（火）～5月27日（土）

第二次世界大戦で被害を受けた子どもたちへの人道支援から始まったユニセフは、紛争や危機、貧困、不平等、差別によって、命や未来を危険に晒されている子どもたちに支援を届け続け、70年になります。東北電力グリーンプラザ・アクアホールにおいて写真展を開催し、800名を超える方々が来場されました。大型タペストリーの「ユニセフ設立70周年展～子どもたちと歩んだ70年」や、「ユニセフによる戦後日本の子どもたちへの支援」、東日本大震災「ハッピー・バースデー3.11～あの日、被災地で生まれた11人の子どもたちと家族の物語」、長谷部誠選手が見た、感じた“レジリエンス”、「シリア危機～戦火の中に取り残された子どもたち」、「やさしさをありがとう、こどもたちの えがお & えがお」など約130点の写真パネルを展示しました。世界の子どもたちの状況や支援活動の様子、支援により見せた子どもたちの笑顔など、写真1枚1枚の向こうにあるそれぞれの命の重みと大切な未来を多くの方に感じていただきました。



「心の鼓動」～シリアの子どもたちから世界へ歌のメッセージ～ You Tubeで見ることができます。シリアの国内避難民で生まれつき視覚障がいのある10歳の少女アンサムさん、避難民となっている子どもたちがコーラスで参加し、紛争で傷ついた街から力強い歌を届けます。

